

東北

共に集まる！青年キャンプ二〇〇四

八月一七〜一九日、室根聖ナタナエル教会を会場に、宣教部主催の「青年キャンプ」が行われました。東北教区内で青年の集いが行われるのは五年ぶりでしたが、総勢一五名の参加者がありました。

今回のキャンプの大きな目的は「とにかく集まってみよう」というところにあったと思います。室根に集まって、共に折り、共に働き、共に食べ、共に語り合おうという思いがありました。

キャンプのプログラムですが、内容は教会の環境整備、テゼの折りなどが中心でした。環境整備は、ペンキ塗り、床みがき、祭壇の清掃などでした。あいに、この雨にもかかわらず、皆で協力しあって作業をしました。

テゼの折りは、歌と折り黙想を中心にして、その光の中で行われ、静かな時を過ごす事ができました。折りの中で、参加者全員に紙を渡し、自分が折りたいことを書いてもらい、それを皆で交換して、共同折願を行いました。

「世界の若者によってこの世に平和が与えられますように。」「来年は今年よりも沢山の人がこの青年キャンプができますように。」東北教区の青年の集まりが出来ますように。来年は一人が一人を、その次の年には、それぞれが一人を集めることができようように。」などの折りが捧げられました。

参加者の思いを紹介すると「同年代の仲間が欲しい。」「一年に一回ではなく、それぞれの教会で青年の集まりがしたい。」「もっと本音で話し合える時間があれば良かった。」「学びの時間があっても良かった。」「テゼの折りの感動した」などの声がありました。

参加者それぞれが様々な思いを抱きながら今回のキャンプは終了しました。今後の青年たちの活動がより自主的に、積極的になるように心から願っています。参加者の

声にあつたように本音で語り合える仲間の輪が広がり、そのような集いが教区内の各地で行われるようになることが大切な事だと思いました。

「まだまだ室根でやり残したことがあるから、来年も室根でキャンプがしたい」という思いを受け止め、この先、数年続けて室根聖ナタナエル教会を会場に青年キャンプを行う方向でいます。

今夏長崎で開催された全国青年大会には、東北からの参加者はありませんでしたが、全国の青年たちと東北教区の青年たちもいつも仲間であると思っています。報告書などを通して教区内の青年たちにも紹介したいと思っています。

小さな歩みですが、これからの東北教区の青年活動のためにもお祈りください。(東北・仙台基督/越山哲也)

「まだまた室根でやり残したことがあるから、来年も室根でキャンプがしたい」という思いを受け止め、この先、数年続けて室根聖ナタナエル教会を会場に青年キャンプを行う方向でいます。

「まだまた室根でやり残したことがあるから、来年も室根でキャンプがしたい」という思いを受け止め、この先、数年続けて室根聖ナタナエル教会を会場に青年キャンプを行う方向でいます。

神戸

洲本ワークキャンプと今後

八月二四〜二六日、洲本真光教会にて司祭六名、高校生五名を含め一九名の参加者で桜の木を伐ることをメインとするワークキャンプを行いました。ワークは上原司祭など、かつてワークに全てを捧げていたであろうワークの達人が青年を引っ張ってくださったり、ヨハネ教会の信者であり力強い助っ人である農学部出身の阪村さんや永野さんが来てくださり、的確なアドバイスを与えてくださったりしたために予想以上に作業が進み、六本の桜の木のうち三本を幹から伐り、残りの三本も道路や隣の家にはみ出し

ている枝を落とすという二日目の昼頃にはほぼ終了することができました。猿のように木に登って枝を落としたり、自分よりも大きな幹を伐ったりと普段の生活では味わ

ばらく消えない人も多かったようで、普段の生活の中での運動不足であるかということを知らされてしまいました。しかし、知らないもの同士が楽しく事故や大きな

ことのできない作業のため楽しみながら行うことができました。また、桜の木を伐るとい

う作業だけでは時間が余りそうだったために、その作業と併行して教会の周囲の草刈も行いました。

料理好きで有名な角瀬司祭を料理長とする食事当番や、各礼拝での聖書朗読や司会などの礼拝当番など、日替わりでの当番制ということで参加者全員が作業以外のことにも関わることができ、皆でキャンプを作り上げる

ことができました。また、ワークキャンプということで夜には「奉仕について」ということをチャプレンの芳我司祭からの話を聞いてそれについて皆で考える時間を持ちました。また全国青年大会や日韓交流キャンプ後最初

の交流会ということで、それぞれの参加者からどのようなことを行い、どのようなことを感じ、たかということを報告してもらいました。そして、今後の交流会についての議論が交わされました。

横浜

教区青少年キャンプ

八月三〜六日、浜松聖アンデレ教会にて「青少年ワークキャンプ」が行われました。今回は中高生チャプレンと合同で企画し、参加者中高校生から青年をターゲットとしました。参加者は二〇名(うち中高生は一二名。毎朝の聖餐式にはじまり昼・夕・就寝前それぞれ

の礼拝を核とし、交代で作る食事をエネルギーに敷地内の整備や看板作りに汗を流しました。世代枠を取り扱うことよって見えてくるものも沢山ありました。

次にこれからの予定ですが、二月一〜三日に米子にて有志による恒例のスキーキャンプ、夏の交流会に向けての準備会が三月一九〜二〇日に福山諸聖徒教会にて行われます。(神戸・神戸聖ヨハネ/水野宏明)

怪我もなく毎回開催できることは、神様がこの大会を見守ってくださっていただいているのだと感謝しています。最近では、学生の参加が少なく、「活気」が少な

なっていました。このワークキャンプには前回のスキーキャンプに参加してくれた高校生、また今回が交流会初参加の高校生など、僕が描いていた交流会の方向性である「高校生と交流会の繋がりが少しずつ生まれ、嬉しく思っています。」

次回は、GWの前半(4月末)ぐらいにしようかと思っておりますので多数の参加をお待ちしています。(特に学生さんや聖職者の方)(大阪・西宮聖ペテロ/当舎真)

「今年度の青年大会でホスト役を務めた九州教区平和を考えるプログラム」(平プロ)実行委員会は、来年三月一九日(土)〜二十一日(月)、長崎で、第六回九州教区平和を考えるプログラムを開催する。青年大会で実際に語り継ぐガイドをやってみて、違う視点から、あるいはさらに掘り下げた視点から、もっと学ぶ必要を感じ、今回のテーマを「語り継ぐために」とした。

九州・久留米聖公会/早川成さんより速報)

九州

今年の青年大会で

「九州教区平和を考えるプログラム」(平プロ)実行委員会は、来年三月一九日(土)〜二十一日(月)、長崎で、第六回九州教区平和を考えるプログラムを開催する。青年大会で実際に語り継ぐガイドをやってみて、違う視点から、あるいはさらに掘り下げた視点から、もっと学ぶ必要を感じ、今回のテーマを「語り継ぐために」とした。

九州・久留米聖公会/早川成さんより速報)

「今年度の青年大会でホスト役を務めた九州教区平和を考えるプログラム」(平プロ)実行委員会は、来年三月一九日(土)〜二十一日(月)、長崎で、第六回九州教区平和を考えるプログラムを開催する。青年大会で実際に語り継ぐガイドをやってみて、違う視点から、あるいはさらに掘り下げた視点から、もっと学ぶ必要を感じ、今回のテーマを「語り継ぐために」とした。

九州・久留米聖公会/早川成さんより速報)

「今年度の青年大会でホスト役を務めた九州教区平和を考えるプログラム」(平プロ)実行委員会は、来年三月一九日(土)〜二十一日(月)、長崎で、第六回九州教区平和を考えるプログラムを開催する。青年大会で実際に語り継ぐガイドをやってみて、違う視点から、あるいはさらに掘り下げた視点から、もっと学ぶ必要を感じ、今回のテーマを「語り継ぐために」とした。

九州・久留米聖公会/早川成さんより速報)

「今年度の青年大会でホスト役を務めた九州教区平和を考えるプログラム」(平プロ)実行委員会は、来年三月一九日(土)〜二十一日(月)、長崎で、第六回九州教区平和を考えるプログラムを開催する。青年大会で実際に語り継ぐガイドをやってみて、違う視点から、あるいはさらに掘り下げた視点から、もっと学ぶ必要を感じ、今回のテーマを「語り継ぐために」とした。

九州・久留米聖公会/早川成さんより速報)

神戸・大阪・京都教区サッカー

今回のサッカー大会は、九月二三日の祝日に行い、二チーム作れるだけの人数が集まり